

枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし、実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

### 編集後記

風薫る五月に、函館で開催される第九回総会の抄録号をお届けする。今年の総会はいくつかの点で、在来の総会とはひと味ちがった学会になるようである。年毎に演題が増加して十分な口演時間を確保できなくなったためであろうか、今回初めてポスター・セッションが設けられた。これこそ第一の斬新な試みといえよう。おおくの臨床学会や基礎医学の学会ではつとに採用されている発表方法ではあるが、医史学会としては初めての試みである。そのため戸惑いの様子がないわけではなかったが、会長自らもポスター発表にまわったことによつて、その戸惑いも幾分緩和されたのではないだろうか。しかし学会のハイライトともいへべき会長講演をじかに聴くことができないのは、一抹の寂しさを感じないわけにはいかない。

医史学の基本的な問題である資料の保存と医史学教育について、それらたつぷり時間を確保したシンポジウムが開かれることが、新機軸の第二点である。医学教育の新しいカリキュラムという名の下に一般基礎教育の講義時間が圧縮されて、そのあおりをくつて医史学の講義も削減されている大学がおおいときく。このような状況にあつてどのようにに医史学

一〇 原稿の送り先

千二三八四三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

教育がおこなわれるべきか、じっくり考える時期が到来したといえるであろう。

学会誌へ投稿された原著論文や研究ノートについては、査読制度という関門によつて一定のレベルをもつた論文が掲載されるシステムになっているが、総会の演題についてはそのような制約は全くないのがわが学会の現状である。そのためばかりではないとおもうが、医史学会に馴染まないような演題も時折顔を見せる結果になる。そのような演題も会員からの活発な発言と討論によつて、学会に相応しい内容に盛り上げていく必要があるのではないだろうか。ともあれおおくの会員が参加されて、活気あふれる総会をむかえたいとおもっている。函館でお目にかかるのを今から楽しみにしている。

(深瀬 泰且)

前号(一号)資料の一部(一一一頁〜一三六頁)で通巻頁付けに誤りが残ったことをお詫び致します。(編集委員会)